

## 第 386 回 昭和の森自然観察会

### 秋の虫 トンボと仲良くなろう

奥村 和男（習志野市）

日 時：2024 年 9 月 8 日（日）10：00～12：00 天候：晴れ

参加者：24 名（大人 12 名、子ども 12 名）、指導員 12 名、管理事務所 1 名

担当指導員：萩、奥村

初めての担当指導員……。前日に萩さんと下見をして、トンボやバッタの種類を教えてくださいました。とはいえ、年甲斐にもなく緊張した 1 日となりました。観察会に初めて参加する方が約半数、日陰で挨拶・注意点を話し、萩さんの班を追うように出発しました。

出発後すぐの草原で生き物を探してみると、あちらこちらから「見つけた！」と声がします。子ども達が見つけた生き物をみんなで観察しながら、子ども達が主役になり、活発に生き物探しができるようになりました。目線より下の生き物を探している子どもが多かったので、木の上にも注意を向けようと思ったら、ニホンアマガエルを発見。まさに「Japanese tree frog」の姿を観察できました。ニホントカゲも発見し、ニホンカナヘビとは違うからだのぬめり具合！？を触って感じました。木の上ではお目当てのハラビロカマキリも発見し、機敏に動く姿を観察しました。

草原では、オンブバッタやショウリョウバッタ、ショウリョウバッタモドキ、クルマバッタモドキ、イナゴ、イボバッタなどが観察できました。途中ヤマボウシの実を食べながら休憩し、林の中ではツクツクボウシやアブラゼミの鳴き声も聞かれました。

田んぼ周辺では、本格的にトンボ探し。捕まえたトンボは三角紙に入れてもらいながら、どんな種類がいるのかを観察しました。確認できた種は、ウスバキトンボ、ノシメトンボ、コノシメトンボ、シオカラトンボ、オオシオカラトンボ、マユタテアカネ、マイコアカネ、ホソミイトトンボ、アオイトトンボなどが観察できました。

初めはトンボに触るのも怖がっていた子が、最後にはトンボを捕まえて三角紙に入れられるようになっていました。また、捕まえた生き物を父親に見せたくて「逃がしたくない。」と泣いている姿も見られました。この観察会を通して、参加者の方々の新しい発見があれば幸いです。



ノシメトンボ(左)コノシメトンボ(右)



トンボアクセサリー



ニホントカゲ